

新市庁舎の市民参加型ワークショップについて

平成 29 年 3 月 27 日 横浜市新市庁舎整備担当

1 市民参加型ワークショップの結果について

(1) 目的

新市庁舎低層部は、屋根付き広場（アトリウム）、市民利用機能、商業機能などを設け、誰もが集い、親しみ、憩う、ホスピタリティある空間を目指しています。

この低層部において賑わいと活力を創出するためには、多くの皆さまに訪れていただくことが重要です。市庁舎に来訪するという目的性を高めるためには、実際に訪れることとなる市民の皆さまがどのような空間・機能を望んでいるかということを理解することがまず重要になります。

そこで、基本設計などの施設計画や、事業者選定の方針などの管理運営の方向性を検討する 28 年度において、「新市庁舎低層部の活用アイデア」や「運営に求められる姿勢」などについて、市民の皆さまとの対話の機会を設けて、幅広く意見をお伺いしました。

(2) 位置付け

本ワークショップにおいては、施設計画と管理運営の方向性を整理するという本市の目的に沿って、運営しました。このため、得られた知見については、本市としての方向性を検討する上で重要であるため、施設計画と管理運営の計画づくりに生かしたいと考えます。

また、参加者の皆さまへのフォローアップや参加者以外の皆さまへの情報提供も重要であるため、引き続き、外部への情報発信を行います。また、庁内プロジェクトにおいても、情報共有する機会を設けており、将来に向けてよりよい管理運営につながるような取組を関係局が連携して実施していきます。

(3) 結果概要

上記の目的と位置付けを踏まえ、別紙のとおり、市民参加型ワークショップ「新市庁舎にみんなで「ひろば」をつくる会議」の成果として、「みんなの「ひろば」宣言」をまとめました。

結果として、オープンかつ柔軟な利用を可能とする空間（市民協働スペースと屋根付き広場との隣接等）と低層部が一体となって賑わいを創出させる全体調整の機能の必要性を整理できました。

2 今後の展開について

屋根付き広場等の管理運営に向けた民間事業者の皆さまとの対話である「サウンディング型市場調査」なども含めて、こうした多様な分野の皆さまとの対話を踏まえ、管理運営の方向性を示す「(仮称)新市庁舎低層部マネジメントビジョン」の策定に向けて、検討を進めていきます。

なお、この計画には、本市として考える新市庁舎低層部のあるべき姿と管理運営の計画等について記載する予定です。

<28年度に行った主な取組>

新市庁舎整備について広く知っていただく取組と、
市民の皆さまが参加できるイベントの連携による
オープンなプロセスの構築と取組成果の公表・共有

低層部全体の方向性の検討

【デザインレビュー】
計画を知る

平成28年4月27日(水)
新市庁舎整備の提案内容を参加者の皆さまに知っていただきました。

【シンポジウム】
認知度を高め
魅力を知る

平成28年5月22日(日)、28日(土)、6月5日(日)
市民の皆さまが活用できる空間とその魅力について共有し、考える
きっかけとしていただきました。

【ワークショップ《前半》】
活用アイデア
を考える

平成28年6月24日(金)、25日(土)、7月31日(日)
新市庁舎で実現できる活動のアイデアを、提案していただきました。

【サウンディング型
市場調査】
事業者の意見を聞く

平成27年11月8日(月)～11月18日(金)
新市庁舎低層部(商業機能以外)の管理運営のコンセプト、体制、手法等
について、様々な分野の事業者の皆さまから提案していただき、意見交換
を行いました。

【ワークショップ《後半》】
運営に必要なことを考
える

平成28年11月21日(月)、12月20日(火)、平成29年1月20日(金)
新市庁舎の「ひろば」運営に求められるルール・機能、仕組み、キャッチフ
レーズを考えていただきました。

なお、市民参加型ワークショップ、サウンディング型市場調査のほか、大学やNPOなど多
様な分野の皆さまと新市庁舎についての対話を行っています。

29年度～ 低層部の管理運営の方向性の決定

平成28年度に行った「新市庁舎にみんなで「ひろば」をつくる会議」の成果として、
【みんなの「ひろば」宣言】をまとめます。

みんなの「ひろば」会議の開催状況



開催期間：28年6月～29年1月

テーマ：
（前半）「豊かな市民生活や活動が育まれる新市庁舎低層部をみんなで考えよう」
（後半）「豊かな市民生活や活動が育まれる新市庁舎低層部を実現する運営をみんなで考えよう」

参加延べ人数：183名（全6回）

みんなの「ひろば」の活用アイデア

アイデアのキーワード：ひろば



アイデアのキーワード：水辺



アイデアのキーワード：展示・回廊



アイデアのキーワード：市民協働空間



アイデアのキーワード：サービス・サポート



ワークショップの結果を踏まえて立てた仮説

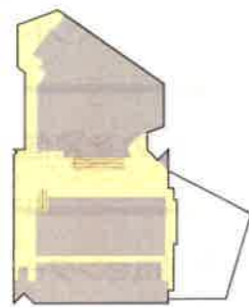


新市庁舎のみんなの「ひろば」



水際線プロムナード・水辺広場等の外構

市民ラウンジ



3F

展示スペース等のオープンスペース



2F



屋根付き広場（アトリウム）

1F

「ひろば」とは、新市庁舎の低層部全体の空間、
そこで行われる活動、そして、
それらを創出していくマネジメントを示しています。

「新市庁舎のミッション」（横浜市新市庁舎デザインコンセプトブック）
～開港の街から持続可能で豊かな国際都市へ～
人、自然、街がつながる開かれた市庁舎を具現化し、
市民と共にOPEN YOKOHAMAを創出する

ここでわたしが横浜の『未来』をつくる！シェアする！

みんなの宣言の中で「わたし」がつくり「シェア」する意義
わたしの「ジブンゴト」を全体に還元すること、
そして、これからも継続して関わっていくこと。

未来をつくり、シェアする「ひろば」。実現のための5つの“軸”

【オープンでフレキシブルな運営を行うこと】

- 禁止事項ゼロになるような、前向きな運用を行うこと
- 使い方が柔軟であるための可変性を空間が持っていること
- 関係スタッフの姿勢が親しみやすく、臨機応変であること

【「ひろば」でのチャレンジ・トライアルを勇気づけること】

- クリエイティブな活動、トライアルのエラーに寛容であること
- 活動のプロセスや、感性価値を大切にすること
- 活動の幅を広げて、豊かさにつなげていくこと

【横浜のローカルからグローバルまでを捉え、未来志向に立つこと】

- 横浜全体・18区のことを深く知り、発信していくこと
- 横浜の歴史を背景として、シビックプライドを醸成すること
- 未来志向を持って、真の国際性を獲得すること

【「ひろば」での多様な「ジブンゴト」を受け入れること】

- 「ジブンゴト」として取り組む人の自己実現を励ますこと
- 様々な参加の形と度合いを認めること
- 「ジブンゴト」は他への思いやりも包含していること

【バリアのない、ユニバーサルで開放的な雰囲気をつくること】

- 誰でもいつでも「ひろば」に共存できること
- 市民と職員の垣根を取り払い、交流を促すこと
- 市役所らしくない雰囲気を持っていること

未来をつくり、シェアする「ひろば」。7つの“場”



イメージ写真：横須賀美術館の広場と憩いの空間

誰でもいつでも居心地よく過ごせる場



イメージ写真：アーバンデザインセンター柏の葉で行われている「公民学」の連携

未来の横浜を生み出す「創造的協働」の場



イメージ写真：シビルウェディングなどの「ハレ」の日イベント、美味しい日常のお店

新たな出会いや発見の場



イメージ写真：歴史を生かした建物「ヨコハマ創造都市センター」で行われるカフェ

横浜らしい魅力を発信し、創造する場



イメージ写真：大岡川沿いの親水空間など他施設との連携

水辺や周辺の街とつながる場



イメージ写真：オープンな対話を演出するロッテルダム市庁舎分館のロビー

市民と職員の「交流」の場



イメージ写真：データと映像に触れられるアルスエレクトロニカシティギャラリー

横浜の歴史・現在を知り、未来を考える場

⇒ 5つの軸と7つの場を実現するためには、「ひろば」全体をマネジメントする仕組みと主体が求められる。